



「県道都留⇄道志線」 「新防災トンネル」が 2月県議会で議論～実現に！

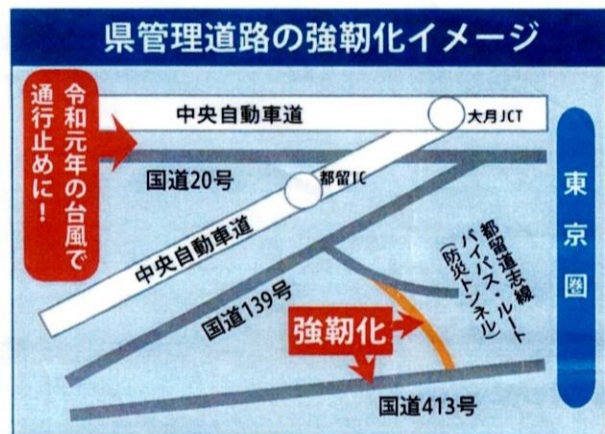
本県と東京圏を結ぶ県管理道路の強靱化の中で「県道都留道志線」も質問

流石議員・質問 国の総額15兆円の予算を活用し、東京圏との連結強化を

山梨県と東京圏を結ぶ中央自動車道と国道20号の災害時強化のため、その主要道路を補完する意味で、並行に走る国道413号及び県道都留道志線のルートが重要と考えます。

現在は、急カーブが連続し、冬期には路面凍結もあり安全で円滑な運行が確保されていません。さらに落石や土砂崩落の危険箇所が点在し、また、雨量規制区間で大雨時は通行止めになる状況です。

国は、防災・減災、国土強靱化のため5ヵ年加速化対策をまとめ、総額15兆円の予算を計上し、令和7年までに重点的・集中的に進めていくとしており、本県も、この予算を活用し東京圏との連結強化を推進することが必要であり、この国道413号及び県道都留道志線を経由する強靱化について伺います。



長崎知事・答弁 「防災トンネル」を含むルートの検討を進めています。

本県と東京圏を結ぶ中央自動車道や国道20号は、経済・産業を支える生命線ですが、令和元年東日本台風で交通途絶が発生し、災害リスクが表にきました。このため、交通強靱化プロジェクトを設立し、国道20号を補完する路線として国道413号を位置付け、県道都留道志線と併せて代替ルートとすることが、東京・山梨間の交通強靱化には不可欠と考えます。

国道413号は、月夜野地区のバイパス整備や沿線の防災危険箇所9カ所の法面対策工事を進め、昨年7月には隣接する相模原市と強靱化に関する協定を締結しました。

また、県道都留道志線を経由する「防災トンネル」を含むルートの強靱化には、国道20号の代替ルートの機能と雨量規制区間の抜本的な解消や走行安全性の向上が図れるよう、トンネルの規模やトンネルの出入り口、道路勾配などを総合的に勘案し、バイパスルートの検討を進めています。

流石議員・再質問 事業化までの、今後の計画は？

県道都留道志線のバイパスルートの検討を進めているとのことだが、事業化までにどのくらいかかるのか？

長崎知事・答弁 概略ルートを地元の皆様に示し、その後2～3年で事業化に取り組みます。

現在、新たなトンネルを含むバイパスの概略ルートを検討中で、来年度(今年4月以降)、地元の皆様方に示す予定です。まず、地元住民の皆様、関係自治体に理解をいただくことが重要なステップで、その後2、3年で地質調査や地形測量、また道路予備設計等を実施し、事業化に向けて取り組む予定です。